

キーパーラボ全店調べ (2020年4月~2021年3月)

キーパーコーティング施工の多い車種ベスト30

クリスタルキーパー、ダイヤモンドキーパーシリーズ(プレミアムを含む)、EXキーパー(プレミアムを含む)の3つのキーパーコーティングにおいて、それぞれどんな車種の施工が多くあるのか?キーパーラボ全店の直近1年間(2020年4月~2021年3月)のデータを調べ、各コーティングで多い車種ベスト30を出しました。

KEEPER. EXキーパー (プレミアム含む)

順位	メーカー	車種	台数
1	トヨタ	ハリアー	285
2	トヨタ	アルファード	210
3	スバル	レヴォーグ	147
4	トヨタ	ヤリス	102
5	レクサス	RX	98
6	トヨタ	クラウン	78
7	ホンダ	シビック	69
8	ベンツ	Gクラス	68
9	マツダ	マツダ3	67
10	トヨタ	ハイエース	66
11	スバル	WRX	59
12	ベンツ	Cクラス	58
13	トヨタ	RAV4	53
14	ベンツ	GLEクラス	52
15	トヨタ	ヴェルファイア	48
16	ベンツ	GLBクラス	47
17	マツダ	CX-5	47
18	ベンツ	GLCクラス	46
19	ベンツ	Eクラス	45
20	マツダ	CX-8	42
21	トヨタ	ランドクルーザープラド	41
22	マツダ	CX-30	41
23	ベンツ	CLAクラス	39
24	マツダ	ロードスター	39
25	ベンツ	Sクラス	38
26	トヨタ	C-HR	37
27	ホンダ	N-BOX	37
28	レクサス	NX	37
29	スバル	フォレスター	36
30	テスラ	モデル3	36

DIAMOND KEEPER. ダイヤモンドキーパー (プレミアム含む)

順位	メーカー	車種	台数
1	トヨタ	アルファード	1,207
2	トヨタ	ハリアー	1,160
3	トヨタ	クラウン	936
4	マツダ	CX-5	926
5	ホンダ	N-BOX	784
6	トヨタ	ヴェルファイア	783
7	トヨタ	プリウス	746
8	スバル	レヴォーグ	691
9	トヨタ	ヴォクシー	630
10	スバル	フォレスター	590
11	マツダ	CX-8	571
12	トヨタ	ハイエース	542
13	トヨタ	ランドクルーザープラド	531
14	ホンダ	フィット	529
15	ベンツ	Cクラス	522
16	日産	セレナ	514
17	BMW	3シリーズ	474
18	トヨタ	RAV4	474
19	ホンダ	ステップワゴン	466
20	スズキ	スイフト	458
21	トヨタ	C-HR	457
22	ホンダ	ヴェゼル	448
23	マツダ	CX-30	441
24	スバル	インプレッサ	438
25	ホンダ	シビック	419
26	ホンダ	フリード	412
27	VW	ゴルフ	405
28	スバル	WRX	404
29	マツダ	マツダ3	400
30	スズキ	ジムニー	378

CRYSTAL KEEPER. クリスタルキーパー

順位	メーカー	車種	台数
1	ホンダ	N-BOX	1,178
2	トヨタ	プリウス	1,028
3	トヨタ	クラウン	922
4	トヨタ	アルファード	833
5	ホンダ	フィット	806
6	トヨタ	ハリアー	768
7	マツダ	CX-5	732
8	スズキ	スイフト	653
9	トヨタ	アクア	592
10	VW	ゴルフ	579
11	トヨタ	ヴォクシー	577
12	スズキ	ハスラー	557
13	スバル	インプレッサ	541
14	BMW	3シリーズ	538
15	トヨタ	ヴェルファイア	529
16	ダイハツ	タント	525
17	ベンツ	Cクラス	520
18	ホンダ	フリード	517
19	トヨタ	ハイエース	511
20	スズキ	スペーシア	492
21	マツダ	ロードスター	491
22	スズキ	ワゴンR	459
23	ホンダ	ヴェゼル	458
24	マツダ	デミオ	457
25	スバル	レヴォーグ	456
26	スバル	フォレスター	450
27	日産	ノート	446
28	スズキ	ジムニー	428
29	日産	セレナ	407
30	ホンダ	ステップワゴン	401

SUPER GT 2021

予選はパーフェクト!ポールポジション獲得も思わぬ落とし穴が!



収容人数を制限して開催された2021年度のSUPER GT開幕戦。37号車のレギュラードライバーの一人サッシャ・フェネストラズ選手がコロナ禍の影響により入国が許されず、事前の公式テストに参加していた阪口晴南選手がサッシャ選手の代わりに出場することになった。

通常であれば予選Q1を阪口選手が通過し、エース平川亮選手がポールポジションをかけてQ2に挑むのだが、3月に行われた公式テスト、午前中に行われたフリー走行の結果を鑑み、好調のNSX勢をおさえてQ2進出を確実にするため、平川選手をQ1に起用し確実にQ2進出を果たす決断を下した。予選Q1残り約1分、平川選手は唯一1分17秒台でトップタイプを叩き出し、貫禄の予選1位通過。阪口選手が予選Q2へ挑み、平川選手の予選タイムを0.2秒上回るタイムでポールポジションを獲得!

決勝レース当日、スタートドライバーを任された阪口選手は、スタートダッシュを決めトップを守ると、GT500参戦2戦目とは思えない落ち着いた走りでもトップをキープ!レースを

けん引していく。1周が約3.7kmと距離の短いこの岡山国際サーキット、6周目にはGT300クラスに追いつき、GT500クラスがGT300クラスを抜いていくところでGT300クラスのマシンが接触によりコースサイドに止まり、セーフティーカーが導入され、後続とのリードはリセットされてしまう。13周周回時にリスタートし、ここでも阪口選手は落ち着いてトップを死守していく。

レース周回32周目、徐々にルーティーンのパット作業を行うマシンが出てくる中、チームはドライバー交代の準備を行っていたが第2コーナーでGT300クラスのマシンがコースアウトして止まってしまふ。セーフティーカー導入を予見したチームは、すかさずマシンをピットへ呼びドライバー交代と給油作業を行うが、他のチームも同様に動きピットロードは大混乱。通常であればピットに対し横向きに止めてドライバー交代、タイヤ交換と給油作業を行うが、ピットロードが狭いこの岡山国際サーキットは、前後にマシンが止まってしまふとマシンがピットアウトできなくなってしまうため、チームはダイブ、頭から斜めにマシンを止めての作業を余儀なくされてしまふ。約3秒をロスしてしまふトップの座を14号車に奪われてしまふ、トップを追うもトラブル発生。通常ピットイン時、ギアは1速に入れて止まり、ピットアウト時はエンジ



第1戦:4/10(土)・11(日) 岡山国際サーキット(岡山県)

ンをスタートさせてそのままスタートするのだが、ドライバー交代時に阪口選手の手がバドルに触れてしまふ、ギアがニュートラルに入ってしまった。それに気づくまでに時間がかかってしまふ、36号車、39号車に先行されてしまふ。ピットアウト後、コースアウト車両回収のため、セーフティーカーが導入され、37号車は4位にてレースリスタート、ドライバーを平川選手に代わりポジションを回復すべく反撃を開始!

57周周回時に39号車をとらえ3位に浮上、さらに前方のマシンを猛追したが2位には届かず、開幕戦を3位入賞にて終了。ポールポジションからのスタートで優勝を狙っていたチームには悔しさの残る結果となった。



●第1戦の結果

順位	No.	マシン	ドライバー
1	14	ENEOS X PRIME GR Supra GR SUPRA GT500	大嶋 和也/山下 健太
2	36	au TOM'S GR Supra GR SUPRA GT500	関口 雄飛/坪井 翔
3	37	Keiper TOM'S GR Supra GR SUPRA GT500	平川 亮/阪口 晴南
4	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra GR SUPRA GT500	ヘイキ・コバライネン/中山 雄一
5	17	Astemo NSX-GT Honda NSX-GT	塚越 広太/ベルトラン・バゲット
6	38	ZENT CERUMO GR Supra GR SUPRA GT500	立川 祐路/石浦 宏明